

# 啓祥会だより 創刊号

発行所 啓祥会事務局 TEL・FAX 075(842)1000  
〒602-8141 京都市上京区堀川通丸太町上ル  
上堀川町118 田辺ビル403号室

発行責任者 中田行雄 発行日 平成17年1月15日

## 啓祥会だよりの創刊にあたって

啓祥会会長 森 金次郎

輝かしい新年を迎え、謹んで新年の御祝詞を申し上げます。  
この度、啓祥会だよりを創刊するに当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

山田啓二京都府知事が、平成14年4月に多くの府民の皆様方の御信託を得て、荒巻前知事からバトンを引き継がれ、京都府知事に当選されてから早くも四年目を迎えようとしています。

昨今のわが国の経済情勢は、バブル経済崩壊後の長期にわたる低迷から立ち直りの兆しは見えるというものの、先行きはまだまだ不透明であり、国においては国債償還費等の義務的経費が大幅に膨らむなど、国家財政は危機的状態となっております。

地方財政もまた国と同様で、厳しい状況に置かれています。このような中で、従来のような全国画一的な行政システムから脱却して、多様な地域の課題や住民ニーズにより的確に答えていくために「地方分権」を推進し、それぞれの地



域で新たな活力を生み出していくことが求められる時代となっております。  
このような時代にあつて、京都府でも取り組むべき課題は山積しておりますが、山田知

事には府政の改革と創生のために、若さと体力を活かし現地・現場主義を基本姿勢に「人づくり」、「活力づくり」、「安心・安全づくり」をテーマに掲げて、京都府の確かな未来づくりに向けて府政を推進してこられました。

そんな中でも特に、平成15年春のSARS事件や、昨年春の高病原性鳥インフルエンザの発生、そして秋には台風23号の襲来により多くの犠牲者を出し、広範囲にわたって大きな傷跡を残す等、度重なる危機管理事案が発生しましたが、その都度更なる前進のための試練として知事自らが先頭に立つて陣頭指揮を執られる等、獅子奮迅の活躍をされたことは皆様御承知のとおりです。

私どもは山田府政の今後とも更なる発展を願う立場から、山田知事のこうした多方面にわたる日常の活動を物心両面から支援し、知事の先見性と行動力によって京都府の進むべき道を切り拓いて頂きたいと願い、昨年4月に政治団体「啓祥会」を設立し届出を受理されたところです。

お陰様で、広範囲にわたる多くの皆様方から設立の趣旨に御賛同を賜り、現在の会員数は千二百名を越える多数の方々から入会の申込みをいただきました。皆様方から頂戴しました会費は、別途設立されている資金管理団体へ引き継いで、有効に活用していただいております。

ここに紙上をもちまして皆様方の御支援と御協力に対し、心から御礼を申し上げます。

会員の皆様方には、どうか今後とも山田啓二さんがしっかりとした基盤に支えられて「確かな京都府づくり」に邁進できますよう引き続き御理解と御支援をお願い申し上げます。

また、お一人でも多くの賛同者が増加してまいりますよう御協力の程を併せてお願いし、会報の発刊に当たつての挨拶とさせていただきます。

## 啓祥会だよりの発刊に寄せて

京都府知事 山田 啓二



新年 明けましておめでとございます。

新しい年の初めを迎え、いつも清々しい気持ちで仕事に邁進できるのも、会員の皆様の変わらぬ御支援あつてのことと感謝申し上げます。

昨年4月に、私を支援して下さる多くの方々の御意志により、政治団体「啓祥会」を発足していただきました。改めまして感謝するとともに心から御礼申し上げます。また、こうして会員の皆様と私をつなぐ「啓祥会だより」が発刊されることは、私としてもまさに二重の喜びであります。今後とも皆様の心強い御声援を糧に、より一層京都府発展のために全力を尽くしてまいりたいと思っておりますので、引き続き変わらぬ御支援・御協力をお願いいたします。

さて、私も府政の舵取りを任せていただいで以来、早くも三度目の正月を迎えました。平成14年に荒巻楨一前京都府知事を引き継ぎ、多くの府民の皆様方の力強い御支援と御信託により、第47代京都府知事に就任させていただきましたが、この

間変化の激しい時代にあつて、現地・現場において課題に向き合い、「英戦しなれば前進はない」との思いで、府政に全力で取り組んできたつもりです。特に、昨年2月の高病原性鳥インフルエンザの発生事案においては、20万羽を超える鶏が感染するという大きな事件となりましたが、府職員や自衛隊・近隣自治体職員の必死の努力と、府民の皆様様の御理解と御協力もあつて、何とか爆発的な感染拡大は止めることができました。しかし、追い討ちをかけるように、秋にはまだ傷跡生々しい台風23号による大水害に見舞われ、15名の尊い命を犠牲にしたのをはじめ、重軽傷者二百名、一万棟を超える住家被害、六百億円を超える公共土木・農林施設や商工観光被害が発生し、今も京都府として全力を挙げて復旧に取り組んでいるところであります。

このように、昨年はまさに京都府の安全対策の真価が問われた年でありました。私自身も府政を担う者として、その責任の重さを痛感したところでありました。それだけに、こうした現象に対して、柔軟かつ迅速な対応が今ほど求められている時はありません。私どもは、鳥インフルエンザにおいては卵価補償を、また台風23号災害においては思い切った住宅再建支援を行いました。何れも国は十分に対応できていないのが現状です。まさに府民と向き合っている私たちが、受益と負担の選択を通じて地域経営にあたることのできるシステム作りが今求められています。昨年来、三位一体改革推進のため、私も全国知事会等で繰り返し発

言してきたのも、真の地方分権を確立するため、この硬直したシステムを府民本位のものに転換し、府民生活の隅々に、安心・安全、ひとづくり、活力、交流、そしてそれが心の豊かさにつながるような府政運営にしたいとの思いからです。

ここ京都は、平安京以来の日本の都であり、千二百年間日本の中心としての悠久の歴史をもっています。京都の人達は、日本各地から集う人々から知識を得て、普段は質素に生活しながら、いざというときには奮えをはたいてでも新しい歴史を築くものに投資する、そんな気風があると思います。今、私たちが学ぶべきことは、新しい時代にあつて、このような京都の智慧を活かし、「いかかくナビ」で示した行財政改革を推進して無駄を省き、府民が本当に必要なものに積極的に投資することだと思えます。私は昨年来、京都の有する底力を活かして、人を大切に、人と人との交流を盛んにし、人々の交流を支える基盤に投資していく「人・間中心」の京都づくりの実現に向けて取り組んでおりますが、これもこのような京都の智慧を活かした府政を進めたい気持ちで取り組んでいるものであります。さらに現在、内外の情勢の変化を踏まえ、京都府の今後の方向を示す「中期ビジョン」の策定を行っており、新府政と併せ、京都府の未来を築いていくために今後取組む必要がある課題や施策を明確にして行きたいと考えております。

結びに、この新しい年が、昨年来の災いを取り払い、そして大きな夢と希望に向かって力強く勇気をもって翔たく一年となりますよう、本年も会員の皆様の変わらぬ御支援、御協力をお願いいたしますとともに、皆様の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。

## 【最近の講演より】

## 第2回京都市府議会・市町村議会 正副議長合同研修会

（平成16年11月24日）

これから京都府で取り組むべき改革の方向について、今までやってきた、いわゆる財政抑制策では限界がありますから、徹底的に経営という位置づけをする。経営という位置づけをする。「切り捨て」をするのではないかと言われていますが、逆です。目を向いていると要らない補助金もつかまされてしまう。テレビ会社が映画でタイタニックを買ったときに、要らない映画も3本ぐらい一緒に買わされてしまうみたいな、同じことを国もするわけです。こういう補助金が欲しかったら要らない補助金もついでに3つぐらい持っていけ、みたいなことを昔からしていました。そうではなくて、あくまで住民を起点として、本当に要るもの、要らないものをしっかりと吟味し、もらっている税に見合ったサービスを住民に返せるようにしていく。こういう経営概念を入れなければいけないのです。我々が目指すべき方向は、府民ニーズに基づく成果重視の行政体制の確立です。そこで、住民の皆さんも、これが欲しい、あれも欲しいと言っているのではなくて、皆さん方自身でどこまでできるか、その上で行政に何をしてほしいか、ということをしつかりと話し合わなければいけませんから、当然、府民発、府民参画、府民協働になる。つまり府民本位になる。それによって住民福祉を確保していく。ですから、要らないと思つたものは、正直言って、少々我慢してもらつても削減させていただく。そのかわり、今回の台風23号みたいに、多くの方が家を失ったときには、地

域の再建のためには全力を尽くして、京都府は市町村の皆さんと一緒に家の再建に全国一の制度をつくる。こういうメリハリをつけたいと思います。

そして、事業手法についても、事業評価を徹底してやっていかなければならない。市町村との間も役割分担をもう一回見直して、皆さんとの間で、これは市町村、これは府、ダブっているものは効率化しましょうという方向で持っていかなければいけない。こういう中で、効果的、効率的な行政経営体制を確立していく。府債についても長期的なコントロールをしていく。単に財政抑制ではなくて、産業政策を推進することによって税源を涵養していかなきゃならない。この分野には投資をすることによって税金で戻ってくるわけです。今、京都府は非常に好調です。平成15年度の企業誘致件数の伸び率は全国3位を記録しました。



今年も大きなものでは綾部の京セラがあるのですが、そういう誘致政策について私ども一生涯命取り組んでき成果を上げました。ただ残念ながら、今から4年前に全国で最高水準の5億



円という補助金と融資、さらに税の減免も入れて、これこそ三位一体だと言って打ち出したときは全国一だったのですが、その企業誘致の補助金も4年たってみますと、今、全国22位まで落ちました。隣の県で90億円も出すところがありますので、こんな補助金の競争では、とてもついていけないところがあります。やっぱり京都府では、京都の強みを生かした勧誘策によって税源も涵養していかなきゃならないと考えています。それから、ムダとは申しませんが市町村と協働できるようなところは協働していきたいでしょう。税の徴収なんて協働できます。住民税などはそういう形でしているわけです。固定資産税と不動産取得税も皆一緒にしているわけです。今は連携とか言っていますが、こんな分野は協働できるのではないかと。そういうものについてどんどんやっていく。こういう形ですることによって、京都府も市町村もこれからの時代を生き抜いて、そしてしっかりとした京都府づくりを、私ども中期ビジョンというのを今つくっています。人に投資する京都、まなび教育の京都、子育ての京都、活力ある京都、文化を発信できる、環境を創造できる京都、そういうようなことを目標に掲げております。そういう京都づくりをしていきたいと思っております。

## 事務局からのお知らせ

新年おめでとうございます。啓祥会の事務局からお知らせします。

「啓祥会だより第1号」を発行するに際し、皆様の御支援・御協力に対しまして、改めて御礼を申し上げます。引き続きまして、本年もどうかよろしくお願い申し上げます。

**啓祥会入会状況**（平成16年12月末日現在） 入会申込者 1,272名、 口数 1,835口

### 啓祥会 平成17年事業予定

★第1回総会・懇談会 平成17年9月頃に、総会を兼ねて山田知事を開んでの懇談会を開催したいと考えております。その節は、改めて御案内いたします。

★「啓祥会だより」の発行

★その他

※事務局には、毎週月・水・金曜日の午後1時30分～5時00分まで詰めております。お近くにお越しの節はお立ち寄り下さい。

## 事務局からのお願い

### 平成17年の会費納入について

設立当初は、会費の納入について、振り込み手数料を各自で御負担いただき皆様に御迷惑をおかけいたしました。

平成17年分の会費（1口5,000円）からは振り込み手数料は当会で負担いたしますので、振り込みをいただく際には手数料を差し引いてお振り込み下さい。

〈振込先〉口座番号

〈振込先〉口座番号		口座名義人
京都銀行 府庁前支店	普通預金口座 4039065	啓祥会 中田行雄
京都中央信用金庫 西陣支店	普通預金口座 0847810	同 上
京都信用金庫 丸太町支店	普通預金口座 0448265	同 上
日本郵政公社	通常郵便貯金口座 14490-39752561	同 上

平成17年分の会費の納入は、できれば平成17年4月30日までに振り込みをお願いいたします。

なお、誠に厚かましいお願いですが、新たに御入会いただける方への御案内・御紹介につきましても、よろしくお願い申し上げます。なお、本会の会員は啓祥会の趣旨に賛同する個人をもって構成することにしております。



### 【啓祥会役員及び職員の概要】

会 長	森 金次郎（日本税理士会連合会会長） （アジア・オセアニアタックスコンサルタント協会会長）	事務局職員	中 田 行 雄 團 幸 雄 藤 原 和 子
副会長	草 木 慶 治（前 京都府副知事）		
監 事	小 西 博（京都銀行 元副頭取）		